

激動の2013年決戦へ!

2012年12月14日
No.73

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

12/9拡大中央委での斎藤委員長まとめ



みなさん、長時間の討論お疲れさまでした。まず第一に、新自由主義の攻撃の吹き荒れるこの時代、この場で私たちがこんなにも団結していること自身が大きな勝利です。

総選挙情勢を見ても、既成政党の四分五裂を見ても、団結しているところなんてどこにもない。私たちの団結の大きさは何回でも確認しなければなりません。

第二に、今日は全国の多くの大学から発言してもらいま

したが、共通していることは、私たちの闘いが明確に情勢を動かしているということです。このことに確信をもってもらいたい。9月に全学連大会をうち抜いて、それから3ヶ月で10・19法大、11・27東北大、京都大での12・4総長室突入闘争、そして11・4労働者集会。この日本で今、あれだけのことをできる集団がどこにいるのか、と。やはり誇りをもって、私たち全学連だけが法大闘争を闘い抜いて、大学での新自由主義攻撃に屈服せずに闘う拠点と人格を守り抜いてきたからこそ、あの闘いは可能でした。

今の総選挙において、「入れたい政党がどこにもない」ということに対し、法大、京大、東北大の闘いがどれほど多くの人に希望を与えるか。何より、ああいう激突の闘いは本当に楽しいし、こういう生き方を貫けるということは本当に楽しいじゃないですか。「この社会に展望はない」と絶望している学生がもしいたとしても、目の前で大学総長室に突入する100、200の学生を見たら、その人は何を思うか。

私たちは大きな可能性と展望を握り締めるところまで来ています。「自分の大学にそれほど激しい衝突はない」という意見もありましたが、それは全部隠されているということです。9月全学連大会の中で、京都大学同学会再建の地平から確認したように、私たちは自分たちの決起で初めて「矛盾」を「敵の弱点」に転化してきた。そういう闘いをやってきた。御用学者の問題だって、私たちが弾劾しなければ今も変わらず偽りの「学問」が積み重ねられているわけです。法政大学の10月6日の大久保利晃講演会、これは50人の参

加ですよ。「放射線影響研究所理事長」「郡山の原子力アドバイザー」という原子力カマラ中心の中心人物を呼んで、300人教室で学生の参加がたったの50人ですよ。まともに宣伝もしない、市民も入れない、他学部の学生すら入れない。都合の悪い部分は排除し、御用学者は今まで通りのうのと「学問」をやっている気になり、今の大学の腐敗したあり方が日々再生産されている。

それに対して武田君が「おかしい」と立ち上がって、その矛盾を焦点化した瞬間に「処分」がかかってきました。これからますます、こういう闘いの構造がはっきりしてくる。東北大でも京大でも、勝利があったからこそ絶対に反動がやってきます。これに対して私たちは、時代認識をもって団結して構え、闘い抜かなければいけない。それに対して闘う力が私たちにはある。

富山大や東北大の闘いが示しているように、いわゆる市民運動とも学生が不屈に連帯して求心力をかちとり、学生の参加からあらためて大学の問題が焦点化する、そういう構造がつけられています。もっともこの闘いを広げれば、豊かなものが生み出されてくる。

私はあらためて、来春に向かって「全学連1000人の部隊をつくり出そう!」と訴えたい。「つくらなくちゃいけないんだ」という悲壮な感じではなく、1000人の全学連の闘う部隊が、この社会にどれほどの可能性と展望を生み出すか、夢を膨らませよう。今、福島で「ミスター100%シーベルト」山下俊一が大暴れですけども、あの福島県立医科大もしくは福島大に学生自治会があって100人200人動員して学長室に突入したら、山下なんてとうの昔に袋叩きで追放されていますよ。そういう闘いを私たち学生はやれるということをつかみとってきたのが、この3ヶ月の闘いだったろうと思います。

これから原発再稼働に向かって帝国主義・新自由主義は前のめりに突っ込んできます。「原発の再稼働阻止!」、これを最大の焦点に「3・11」二周年の闘いを私たち学生の力で大成功させる。その力で三里塚の決戦、星野同志奪還の闘い、あらゆる闘いを勝利させていく。そしてキャンパスにおいて武田雄飛丸君への処分撤回の大署名運動ですべての学生の団結をつくり出す、全学連のもっともっと大きな影響力をつくり出す。裾野の広がって深く強い、そういう全学連運動をつくり出したい。決戦の中で勝つために人を

誘い、勝つために仲間を増やしてさらに大きな闘いをやっていく。最初は当局への申し入れから始まるかもしれない、どんな行動でもいい。一つでも相手に突きつけられれば、今の大学は絶対に答えることができない。彼らは学生に答えるなんて考えていないし、学生なんて無視していいと本当に思っているからです。あらゆる大学で、いま大学がこっそりと御用学者を呼んだりしています。一つひとつ調べて追及して相手の矛盾を暴露して、それを闘いにしていく。

あらためてキャンパスから反原発の大行動を！ 原発再稼働阻止の100万人大行動を実現しよう！ 武田君への「無期停学処分」撤回の大運動、全国学生1万筆の大署名運動の展開を！ そして「大学改革」攻撃と対決し、寮、サークル、自治会をめぐる攻防に勝利し、全国大学に学生自治会を建設していこう！ 1000人の全学連の部隊の登場で、この社会をひっくり返す闘いをやっていきましょう！ 団結してともに闘い抜いていきましょう！ ありがとうございます。

首都圏国立A大学・1年生の発言

今日は同じ大学の友人を連れてきました。彼とは地元で一緒に反原発行動をやっています。東北大の規制強化の話などを聞いて、私たちの大学でも、反原発行動を呼びかけるビラ貼りの申請を半分わくわく気分です。ある学部では「教育的観点から政治的なことはちょっと…」と言われました。東北大で、大学当局に団体を解散させる権利があるというのは明らかにおかしいですね。驚きです。大学は自由なところでしょうか？ 自由に結成したのを当局が解散というのはおかしいです。

僕が最近気になっているのは選挙です。TPPにも関心があるんですが、「原発と戦争」について非常に重要視しています。これが特に私たちに影響を与える。もしかしたら、またアジア太平洋戦争みたいなことが起こる可能性があるんですね。また過ちを繰り返すのか、と。侵略戦争をして、歴史的には経済力が上がって豊かになってと言われますが、僕自身は他国の人を侵略して他国の人たちの犠牲の上に成り立つ「富」なんていららないと思います。そんなのは人間としておかしい。

原発については、Y新聞を購読していますが、この国に法律がなかったらその新聞社に乗り込んで皆殺しにしたいくらいです。Y新聞は原発推進なんです。“反原発を唱えている人たちは現実を見ていない、非現実的だ” “感情的に大衆迎合主義だ” “と言っているんです。「感情論」というのは逆にいいと思うんです。みなさん、ここにいるのはなぜですか？ 少なくともこの社会を変えたいという感情があるからじゃないですか。みんなが幸せに暮らせる社会にしたいという思いがあるからじゃないですか。これって一種の感情なんです。感情論的で大衆迎合主義だとか、向こうの方が現実を見ていないじゃないですか。福島の実情を見ていないじゃないですか。おかしいと思います。

マスコミは国家権力側と一体の部分があります。議案で本当に共感したことは「今回ほど投票したい政党がない」というところ。例えば未来の党が「10年以内に原発なくす」と言っていたんですが、「再稼働はやむをえない」という発言をした時があった。その直後に訂正する、それを見て「だめだな」と。減税日本の某市長の軍隊慰安婦問題での発言、橋下さんも石原さんも、この国の危機の根本問題を見ないで排外主義だとか軍力だとかに頼ってのりこえよう

とする。これは間違いだと歴史が証明しているわけです。昔の大日本帝国みたいなことをしようとしているんです、今の日本は。これは僕らが止めていかなければいけない。

私は青森出身ですが、青森というのは原発立地県です。大間もあるし東通もあるし六ヶ所もあるし、本当に反原発の声をあげている人に対して申し訳ない。自分の出身県が原発推進であるというのは、怒りより悲しみの方が大きい。青森をはじめ全国から原発をなくすために、いっそう原発立地県民として頑張っていきたいと強く思っています。

最後にいいたいことは一つなんです、もう社会を変えましょう、みなさん。私はこんな社会に生きていたくないです。正直50歳まで生きている自信がない。ちょっとひどい社会すぎて。変えましょう。今の社会というのは、完全に敷いたレールの上を歩かされている社会だと思えますよ。ブルジョアジーとかにうまく誘導されているというかね。だから、「自己決定権」という言葉があるんですけど、自己決定権があるようでないんですね。議会制民主主義にも絡んできますけど、自分たちの手でレールを敷いて、自分たちの電車に乗って、自分たちの手で運転して、自分たちで進んでいきましょう！ 反原発行動を頑張ります。人数を増やしていきたいと思ってます。

